

公立大学法人福岡県立大学中期計画

(平成24年度～平成29年度)

平成24年4月1日
公立大学法人福岡県立大学

福岡県立大学 第2期中期計画 目次

中期目標	中期計画	頁	
<p>1. 教育 保健・医療・福祉の現場で中核となって活躍する資質を持った優秀な職業人を育成する。</p>	<p>前文</p> <p>1. 教養教育の充実 ① カリキュラムと科目内容の検討・改編 ② 教養演習・総合科目の改善</p> <p>2. 専門教育の充実 ① カリキュラムと科目内容の検討 ② 東洋医療を導入した教育プログラムの構築 ③ 実践力強化のための実習教育の充実 ④ 両学部連携による他の専門職と協働できる実学的専門教育科目の推進 ⑤ 高度専門職業人の人材育成（人間社会学研究科） ⑥ 高度専門職業人の人材育成（看護学研究科） ⑦ 他大学との連携による教育の充実</p> <p>3. 教育効果を検証するシステムの構築 ① 学生による授業評価の実施と有効活用 ② アウトカム評価システムの充実</p> <p>4. 教員の教育能力の向上 ① 教員のFD活動の推進 ② 他大学や実習先の職員との合同研修による教師力向上戦略の推進</p> <p>5. 優秀な学生の確保 ① アドミッションポリシーに合った質の高い学生の確保 ② 積極的な広報活動</p> <p>6. 学生支援の充実 ① 入学から卒業後までのキャリア形成支援体制の強化 ② 大学間の学生コンソーシアムの構築 ③ 大学院生支援の充実</p> <p>7. 学習環境の充実 ① IT教育システムの充実 ② 社会人が学びやすい学習環境の充実 ③ 図書館の教育・研究活動支援と研究情報公開の充実</p> <p>8. 人間社会学部の改革 ① 改革案の検討・作成</p> <p>9. 両学部連携の大学院博士課程の新設 ① 大学院博士課程の新設検討</p>	<p>1</p> <p>2</p> <p>3</p> <p>8</p> <p>9</p> <p>11</p> <p>13</p> <p>15</p> <p>17</p> <p>18</p>	
	<p>2. 研究 大学の特色ある教育や地域社会の発展に役立つ研究を推進する。</p>	<p>1. 地域とアジアの保健・医療・福祉に寄与する研究の推進 ① 附属研究所を中心とした学際的研究プロジェクトの推進 ② 外部研究資金の獲得の推進 ③ 研究倫理の徹底</p>	<p>19</p>
	<p>3. 社会貢献 大学の特色を活かして、社会貢献活動を拡充する。</p>	<p>1. 地域とアジアとともに発展する国際交流の推進 ① 国際交流センター（仮称）を中心とした教育研究の国際化推進体制の検討 ② 留学生への支援体制の充実 ③ 産地地記録資料の英文アーカイブ化と国際学術研究交流の推進</p> <p>2. 県立三大学、福岡県、田川市郡との連携による社会貢献の推進 ① 附属研究所による地域課題解決のための連携取組の推進</p> <p>3. 地域に貢献する大学としての認知度アップと事業推進 ① 地域住民の健康の向上、福祉、教育等の相談・支援の実施 ② 資格・免許保持者等へのリカレント教育や研修の実施 ③ 地域に貢献する大学としての認知度アップ戦略 ④ 看護実践教育センターでの認定看護師教育の充実</p>	<p>22</p> <p>24</p> <p>25</p>
	<p>4. 業務運営 理事長のリーダーシップのもと、大学運営の改善を推進する。</p>	<p>1. 運営体制の改善 ① 事務局機能の強化 ② 教員の志気を高める教育環境の整備 ③ 教員の個人業績評価システムの改善 ④ リスクマネジメント体制の整備</p>	<p>29</p>
	<p>5. 財務 経営者の視点に立って、法人の財政運営を行う。</p>	<p>1. 自己収入の積極的確保 ① 外部研究資金等の積極的確保</p> <p>2. 運営経費の削減・抑制 ① 業務改善による経費の削減 ② 人件費の抑制</p>	<p>31</p> <p>32</p>
	<p>6. 評価及び情報公開 評価を厳正に実施し、大学運営に反映する。また、大学情報を積極的に公開する。</p>	<p>1. 自己点検・評価の効率的な実施 ① 自己点検・評価の見直しと実施</p> <p>2. 広報活動の充実・強化 ① 県大ブランド力の強化</p>	<p>33</p> <p>34</p>
		<p>その他中期計画において定める事項 Ⅰ. 収支計画予算及び資金計画予算 Ⅱ. 短期借入金の限度額 Ⅲ. 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画 Ⅳ. 剰余金の使途 Ⅴ. その他設立団体の規則で定める業務運営に関する事項</p>	<p>35</p>

第2期中期計画前文

少子・高齢社会が進展し、人口減少に伴い、地域社会や家族のあり方が大きく変化している。その中で福岡県は「地域ケア体制整備構想」と「第5次高齢者保健福祉計画」を策定し、高齢者ができるだけ住み慣れた地域において、安全・安心に生活ができ、なおかつ、利用者本位で、尊厳を重視した適切なケアが今後も受けられる体制を確立するため、介護サービスをはじめとして、地域における見守りサービスや住まいの整備、在宅医療提供体制の整備等を含めて、県、市町村、医療機関、介護事業者、そして県民それぞれが連携・協力して取り組むべき方向を示した。平成23年には「70歳現役社会づくり報告書」をまとめ、高齢者が健康でいきいきと働き活躍することができる社会をめざしている。このような社会は、助け合いの精神風土の醸成、疾病の予防や高齢者の生き甲斐づくりなど、医療や看護、福祉等の専門領域を超えて総合的な視点から捉え直さなければ実現することはできない。

公立大学法人福岡県立大学は、人間社会学部と看護学部を有する福祉系総合大学として、地域の課題に積極的に取り組み、両学部が共同して取り組むべき複合的領域において学際的な教育を行う。そして、ケアを必要とする人々に、よりよいサービスを提供し、保健・医療・福祉の現場で中核となって活躍する資質を持つ優秀で高度の職業人であるとともに、総合的なマネジメントができ、共助社会づくりに貢献できる人材を育成する。

教養教育では、実践的な基礎教育、専門教育の導入教育として、カリキュラムと科目内容の検討・改編と教養演習・総合科目の改善を行うとともに、グローバル化に対応するため語学教育（英語・中国語・韓国語）を充実する。専門教育においては、人間社会学部の改革、東洋医療を導入した教育プログラムを構築し、カリキュラムと科目内容の検討・改編を実施するとともに、実学的専門科目を充実させ、両学部が連携して相互に他の分野も学習できる特色あるカリキュラムを編成する。

授業では、実践力強化のための実習教育を推進するとともに、学生による授業評価を拡充する。教員の教育能力を向上させるFD活動を、全学的な取り組みに加え、各学部・学科ごとでも積極的に展開する。そして、学生の入学から卒業までのキャリア支援体制を強化し、アドミッションポリシーに合った、質の高い意欲のある学生の入学、学習環境を整備し、十分な教育と厳格な成績評価を推進し、キャリア形成・就職支援のシステムを構築し、充実を図る。

さらに、高度な実践的専門的知識を求める学生の教育と地域において活躍する専門的職業人のリカレント教育のために、大学院修士課程を充実し、大学院博士課程について検討を行い設置する。

学術研究においては、附属研究所の機能を強化し、大学の人材、知的財産、施設等を活用し、田川市郡との包括的連携のもと、共助社会づくりに寄与する実学的研究、社会的地域の要請に資する研究の体制を重点的に整備し、競合大学の差別化を図る。また、本学の重要な使命である社会貢献では、学内の地域社会連携体制を整備し、地域社会との交流・協調・連携を推進し、多様な社会的ニーズに的確に対応する。更に東アジアの協定校との保健・医療・福祉の教育、研究を推進する。

組織運営においては、理事長のリーダーシップのもとに迅速で柔軟な意思決定システムと自己点検・評価体制を確立し、常にその改善を図る。「人材・施設・財源」を一括管理して全学的視野で大学運営の計画を立案し、これを実施する。

自律的経営を進め、教育と研究の質を高めるため、積極的に外部資金を獲得する。第2期中期計画にしたがって着実に改革を進め、広報活動を充実強化し、福岡県立大学のブランド力を高めていく。迅速で柔軟な意思決定と大学運営により、教育・研究・社会貢献のあらゆる面において社会・経済の急激な変化に対応し、18歳人口の減少に伴う激化する大学間競争の中で、存在感のある、個性あふれる大学を建設する所存である。

中期目標	項目	教育
中期計画	項目	教養教育の充実 公立大学法人福岡県立大学の教養教育は、豊かな感性、柔軟な思考力、緻密な論理構成力および自己表現能力の習得をめざす。
	実施事項	1. カリキュラムと科目内容の検討・改編 2. 教養演習・総合科目の改善

中期計画内容								
1	実施事項	カリキュラムと科目内容の検討・改編 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞						
	内容	①専門科目の基礎と社会人・職業人として身につけるべき教養科目を中心に、カリキュラムや科目内容を検討・改編する。						
	評価指標	指標					達成目標	
		学生の成績					教養科目全てを対象として C以上80%	
	実施計画	H24	H25	H26	H27	H28	H29	備考
強化すべき教養カリキュラム検討および実施	検討		→				実施・修正	
2	実施事項	教養演習・総合科目の改善 ＜両学部の教養演習、総合科目＞						
	内容	①学生の課題発見・解決能力、論理的思考力及び自己表現能力を高めるために、教養演習等における授業内容と方法を継続的に改善していく。 ・教養演習・総合科目の改善 ②語学について、従来の語学教育を見直し、アジアとともに発展する国際交流を推進させるために、アジア諸国の異文化理解と共にコミュニケーション能力を高める。 ・英語・中国語・コリア語教育の充実						
	評価指標	指標					達成目標	
		学生の成績 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞					全学の教養演習及び総合科目において C以上 80%	
		語学教育カリキュラムと科目内容の検討・改編					2科目増設	
	実施計画	H24	H25	H26	H27	H28	H29	備考
	共通テキストの見直し・改善			実施				→
	総合科目内でのグローバル化への対応にむけた新科目案と既存科目教育内容変更の検討・実施		検討	→		実施		→
	英語カリキュラムと教育内容・方法の見直し・実施	検討	→	実施				実施内容としては、コミュニケーション力の強化のために学内のネイティブ教員の活用・学外講師の導入を図る
	教養演習英語クラスの開設案の検討	検討	→		実施			英語に興味をもつ一部の学生を少数精鋭で教育するクラスを開設する。
異文化理解のための中国語・コリア語教育の検討・実施	検討	→			実施		異文化理解に軸足をおく語学教育への変更を検討する 異文化を理解し、又はその意欲を持たせた上で、当該言語による会話能力の向上を図るための教育を実施するもの。最終的に異文化の方との総合的コミュニケーション能力を育成することを目的とする。	

中期目標	項目	教育
中期計画	項目	<p>専門教育の充実</p> <p>専門教育は、本学の特色を活かし、専門分野だけでなく、相互に他の分野にも対処できる能力を育成する。</p> <p>人間社会学部では、現行のカリキュラム体制の見直しと再編を図り、保健・医療・福祉の現場で中核となって活躍する福祉専門職、心理専門職、地域マネジメントに関する職業人の育成を図っていく。</p> <p>看護学部では、社会的に実践能力の高い看護職が求められており、「学部における看護実践能力を育成するカリキュラムの充実・強化」が必要である。健康問題に対して広い視野から柔軟に対応し、創造的な解決策を提案できる看護師・保健師・助産師・養護教諭の育成を目指す。なお、助産師養成は平成27年度から大学院修士課程に移行する。</p> <p>また、専門職としての規範意識の向上と職業倫理の涵養を強化する。</p> <p>さらに、高度な地域保健福祉の総合的な実践、保健福祉サービス供給のシステムの中核を担うことのできる人材を育成する大学院教育の充実を図る。</p>
	実施事項	<ol style="list-style-type: none"> 1. カリキュラムと科目内容の検討 2. 東洋医療を導入した教育プログラムの構築 3. 実践力強化のための実習教育の充実 4. 両学部連携による他の専門職と協働できる実学的専門教育科目の推進 5. 高度専門職業人の人材育成(人間社会学研究科) 6. 高度専門職業人の人材育成(看護学研究科) 7. 他大学との連携による教育の充実

中期計画内容							
1	実施事項	カリキュラムと科目内容の検討 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞					
	内容	①専門教育充実の視点からカリキュラムと科目内容の検討を行う					
	評価指標	指標			達成目標		
		シラバスの改善科目数			全専門科目		
	学生の成績			専門教育科目において C以上80%			
	実施計画	H24	H25	H26	H27	H28	H29
人間社会学部のカリキュラムと科目内容の検討		検討	→		実施・修正	→	
看護学部の指定規則改正カリキュラムの実施	実施				再検討	→	平成24年度入学生から適用のカリキュラムの実施。新カリキュラム完成前年度から見直しのための再検討を行う予定。

2	実施事項	東洋医療を導入した教育プログラムの構築 ＜看護学部＞						
	内容	①東洋医療と西洋医療を融合した教育プログラムの検討・実施 ホリスティック人間論、東洋看護学演習等の教育プログラム内容の検討						
	評価指標	指標					達成目標	
		学生の成績					教育プログラムの C以上80%	
	実施計画	H24	H25	H26	H27	H28	H29	備考
①東洋医療を導入した教育プログラムの検討・実施			検討・実施				平成24年度からホリスティック人間論及び東洋看護学演習を単位化する。 * 人間社会学部においても実施に向けた検討を行う	
②教育プログラムの評価・修正				評価・修正				
3	実施事項	実践力強化のための実習教育の充実 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞						
	内容	①看護実践能力育成のための実習教育の充実 ②人間社会学部における実習教育の充実 ③実習前後における学習内容の充実						
	評価指標	指標					達成目標	
		看護学部における臨地実習指導体制の整備					実習指導者連絡会議開催年1回以上	
		教育・保育・養護実習における事前事後指導の充実					事前事後指導科目 3以上 75%	
		学生の成績					事前事後指導科目 C以上 80%	
	実施計画	H24	H25	H26	H27	H28	H29	備考
	看護学部における実習指導者連絡会議の検討と実施			検討・実施				
	看護学部における実習指導体制の実施と見直し		実施					平成24年度入学生から適用
					再検討			
	看護基本技術習得の実施と見直し		実施					平成24年度入学生から適用
					再検討			
事前事後指導の充実	検討				実施			
人間社会学部社会福祉学科における実習指導の新体制の実施と見直し		実施						
				再検討				
人間社会学部人間形成学科における実習指導の充実			検討・実施					
人間社会学部公共社会学科における実習指導の充実			検討・実施					

4	実施事項	両学部連携による他の専門職と協働できる実学的専門教育科目の推進					
	内容	①保健・医療・福祉の現場の専門職を招聘し「他の学部の専門分野を学ぶ実学的教育プログラム」の充実を図るとともに、選択科目としての単位化を検討する。 ②「両学部で学ぶ専門的連携科目」(「社会貢献論」、「社会貢献論演習」、「不登校・ひきこもり援助論」、「不登校・ひきこもり援助応用演習」)の充実を図る。 ③両学部の学生が共に海外の保健・医療・福祉の現場を訪れ、語学を学びながら現場体験を行う「海外語学実習」の実習先の開拓を行うとともに、その事前準備のための「海外語学演習」の充実を図る。 ④社会貢献フォーラムと公開卒論発表会の開催					
	評価指標	指標					達成目標
		学生の成績					C以上80%
	実施計画	H24	H25	H26	H27	H28	H29
他の学部の専門分野で学ぶ実学的教育プログラムの単位化		検討	→		実施	→	・平成24～26年度はプログラムを実施しながら、単位化を検討する。
両学部で学ぶ専門的連携科目		充実を図りながら実施				→	・毎年度、評価をしながら、充実を図る。 ・「不登校・ひきこもり援助応用演習」は平成25年度から開講。
「海外語学実習」「海外語学演習」		実習先を開拓しながら実施				→	・「海外語学演習(事前事後指導)」は平成24年度から単位化。
社会貢献フォーラムと公開卒論発表会の開催		社会貢献フォーラムの開催				→	・平成22年度の1年生から社会貢献フォーラムⅠ～Ⅲを順次実施。公開卒論発表会は平成25年度から実施。
		公開卒論発表会の開催				→	

5	実施事項	高度専門職業人の人材育成 ＜人間社会学研究科＞						
	内容	①高度専門職業人の育成を重視したカリキュラム体制にいくため、人間社会学部の改革検討に合わせて大学院修士課程の見直し検討を行う。						
	評価指標	指標					達成目標	
		充足率 (入学者数) / (入学定員)					100%	
	実施計画	H24	H25	H26	H27	H28	H29	備考
人間社会学研究科の専攻課程の見直し検討と実施	検討				実施		現行の人間社会学研究科の専攻課程の見直し	
6	実施事項	高度専門職業人の人材育成 ＜看護学研究科＞						
	内容	①高度な看護専門職教育の充実 ②現場看護職の研究支援及び相互交流による高度実践能力の育成 ③大学間のがんプロフェッショナル連携の構築						
	評価指標	指標					達成目標	
		充足率 (入学者数) / (入学定員)					100%	
	実施計画	H24	H25	H26	H27	H28	H29	備考
	専門看護師コース見直し検討・実施	検討		実施				・専門看護師コース課程認定申請（精神看護） ・新たな専門看護師コースの認定申請準備（老年看護） ・既設の専門看護師コースの再検討／充実（がん看護）
	ポストがんプロe-ラーニングクラウドの検討と実施			検討・実施				「全国がんプロ」で作成したe-ラーニングクラウドに沿った受講体制を整備する。「がんプロ」は、文部科学省が財政支援する「がんプロフェッショナル養成プラン」のことで、九州・沖縄では、九州大学を拠点として本大学を含む13大学と連携して実施している。
	ポストがんプロ実施に関する会議の開催			実施				「がんプロ」は平成23年度終了する。「ポストがんプロ」とは各大学が予定する継続的取組を指す。
	保健師の修士課程での教育に向けた検討			検討				
	助産師の修士課程での教育（助産師国家試験受験資格取得コースと免許取得者スキルアップコース開設）	具体的な実施方法についての検討				実施		
修士修了生の支援対策に関する検討・実施	検討				実施		本研究科修了生の希望者に対して論文の支援、CNSコース修了者に対するコンサルテーションなどを行う	

7	実施事項	他大学との連携による教育の充実 ・専門領域に応じた他大学との連携による教育の充実<人間社会学部> ・ケアリングアイランド九州・沖縄コンソーシアムの構築<看護学部>					
	内容	①両学部において、専門領域に応じた他大学との連携プログラムを検証し、実施する。 ②看護学部においては、ケアリングアイランド九州・沖縄コンソーシアムを構築し、講義の相互受講システム、大学連携による授業科目の提供など、教育の充実を図る。					
	評価指標	指標			達成目標		
		他大学との連携プログラムの件数 <人間社会学部>			1件以上/年		
大学間連携による開講科目数 <看護学部>			1科目以上				
実施計画	H24	H25	H26	H27	H28	H29	備考
他大学との連携プログラムの検討・実施		検討		→	実施	→	<人間社会学部>
講義の相互受講検討と実施		検討	→		実施	→	<看護学部>
ケアリングアイランド九州沖縄コンソーシアム会議の開催			実施			→	

中期目標	項目	教育
中期計画	項目	教育効果を検証するシステムの構築 十分な教育と厳格な成績評価を行い、確実な知識と技術を身につけた専門職業人を育成する。 その教育効果を検証するための評価システムを構築する
	実施事項	1. 学生による授業評価の実施と有効活用 2. アウトカム評価システムの充実

中期計画内容								
1	実施事項	学生による授業評価の実施と有効活用 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞						
	内容	①学生による授業評価の継続的实施(前期、後期)とその結果に基づくFDセミナーの開催などを通じて教育内容の改善を図る。また学生との座談会等を実施する。						
	評価指標	指標			達成目標			
		学生による授業評価結果を反映したFDセミナーの開催			年1回以上			
	学生による授業評価の回収率			各授業科目の回収率 70%以上				
	実施計画	H24	H25	H26	H27	H28	H29	備考
	学生による授業評価の継続			実施・検討				→
FDセミナーの実施			実施・検討				→	
評価システムの検討	検討	→		実施			→	
2	実施事項	アウトカム評価システムの充実 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞						
	内容	①就職先へのアンケートを実施する。 ②卒業生の実態を把握するアンケートを実施する。 ③就職先の評価、卒業生の実態、就職先等を総合的に評価し、対応を考えるシステムを作る。						
	評価指標	指標			達成目標			
		アンケート内容の見直し			年1回以上			
		就職率:(就職者数/就職希望者数)			95%以上			
	国家試験合格率			看護師98%以上、保健師90%以上、助産師90%以上、社会福祉士70%以上、精神保健福祉士70%以上				
	実施計画	H24	H25	H26	H27	H28	H29	備考
就職先アンケートの実施・修正		実施・修正					→	
卒業生アンケートの実施・修正		実施・修正					→	
アウトカム評価システムの検討・具体化	検討	→		実施			→	

中期目標	項目	教育
中期計画	項目	教員の教育能力の向上 学生にわかりやすい授業を提供するために教員の教育力の向上を図る。
	実施事項	1. 教員のFD活動の推進 2. 他大学や実習先の職員との合同研修による教師力向上戦略の推進

中期計画内容

1	実施事項	教員のFD活動の推進 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞						
	内容	①ワークショップや研修会などを企画し、実施し、授業改善に活かされたかを検証する。 ②教員間の授業参観システムの構築 ③Best Teacherによる公開授業の実施						
	評価指標	指標			達成目標			
		FD活動等への教員参加率			100%			
		学生の成績 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞			両学部の常勤教員の全教科において C以上 80%			
	教員間の授業参観システムの構築			教員間の授業参観を実施年1回以上				
	実施計画	H24	H25	H26	H21	H22	H23	備考
	教員の授業自己評価の実施・修正			実施・修正				
	学生による授業評価の実施			実施・修正				「学生による授業評価」とは、教員の授業取組に対する学生からの評価
	ワークショップ・研修会の実施と検証			実施・検討				学部FDと大学院FDの両方を企画する。
教員間の授業参観システムの検討・実施	検討		実施					
Best Teacherによる公開授業の実施	検討		実施					

2	実施事項	他大学や実習先の職員との合同研修による教師力向上戦略の推進 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞					
	内容	<p>①看護学部と臨床との看護ユニフィケーションを構築し、教員の臨床での継続教育への参画を企画、実践していく。</p> <p>②大学と臨床現場との看護実践・教育・研究が有機的に連携するために、臨床教授等と協働したワークショップや講習会などを企画し、実習指導力を向上させる。</p> <p>③両学部と他大学との情報共有しながら、教育能力向上のための合同研修会などについて、検討及び実施する。</p> <p>※「看護ユニフィケーション」とは、教育・実践・研究の3つの機能を連携・協同することにより看護学を実践の科学と位置づけ、より質の高いものへ発展させる考えで、茨城県立医療大学など複数の公立大学が実施している。</p>					
	評価指標	指標			達成目標		
		臨床との共同研究数			年に1件以上		
		教員・指導者講習会実施数			年に1回以上		
		教員の臨床継続教育者数			年に1人以上		
	他大学との合同FD開催数			年に1回以上			
実施計画	H24	H25	H26	H27	H28	H29	備考
大学と臨床との共同研究の実施			実施				
臨床教授制(助教)の再整備と教員・指導者講習会の企画、実施	検討			実施			
他大学との合同研修会などの検討・実施		検討			実施		
人事交流の検討・実施		検討			実施		臨床現場の看護師、保健師、助産師の教育／研究現場での研修や教員の臨床現場での研修等
ブラッシュアップのためのセミナー開講	検討			実施			

中期目標	項目	教育
中期計画	項目	優秀な学生の確保 本学の教育目標にかなった、健やかで心豊かな福祉社会の創造に夢と意欲をもつ学生を質・量ともに確保する。
	実施事項	1. アドミッションポリシーに合った質の高い学生の確保 2. 積極的な広報活動

中期計画内容							
1	実施事項	アドミッションポリシーに合った質の高い学生の確保					
	内容	①学部・大学院で育成すべき学生像に沿って定めた学生・院生の受け入れ方針をもとに行っている選抜方法が効果的な方法であるかを検討する。 ②入試時の成績や入試形態などと入学後の成績との分析を行い、選抜方法などの見直しを行う。 ③高校や高校生との連携を深めるための高大連携事業について検討・実施する。 ④大学院の入試説明会を見直しながら実施する。					
	評価指標	指標			達成目標		
		志願倍率 <各学科の志願倍率(一般入試)> (志願者数) / (募集人員)			公共社会学科	6.5倍以上	
					社会福祉学科	6.0倍以上	
					人間形成学科	7.5倍以上	
		辞退率 <各学科> (辞退者数) / (合格者数(追加除く))			看護学科	5.5倍以上	
		充足率 <大学院> (入学者数) / (入学定員)			両学部における 辞退率 25%以下		
		出前講義数及びアンケート			大学院における 充足率 100%		
					出前講義(体験学習含む)20回以上 良好評価75%以上		
	実施計画	H24	H25	H26	H27	H28	H29
	入試選抜方法の見直し				実施・検討		
	入試時の成績や入試形態などと入学後の成績との分析		検討			実施	
	高大連携事業の検討と実施		検討			実施	
	大学院入試説明会の検討と実施		検討			実施	

2	実施事項	積極的な広報活動						
	内容	①大学紹介のパンフレットの内容を改善する。 ②入試説明会の依頼には積極的に応じて大学をPRする。 ③オープンキャンパスは毎年アンケートをとり、実施内容を評価しながら改善に取り組む。 ④ホームページの入試ページの更新、内容の工夫をする。 ⑤大学祭など大学に外来者が来訪する機会を捕らえて、パンフレット配布等のPRを行う。						
	評価指標	指標				達成目標		
		オープンキャンパス参加者数及びアンケート				1,000名以上、良好評価75%以上		
		入試説明会参加数及びアンケート				10会場、良好評価75%以上		
		訪問高校数及びアンケート				30校、良好評価75%以上		
	実施計画	H24	H25	H26	H27	H28	H29	備考
	大学紹介パンフレットの作成・改善			実施・改善				→
	入試説明会への参加と大学PRの実施			実施				→
	オープンキャンパスでのアンケートの実施・評価・改善			実施・評価・改善				→
	ホームページへの入試ページの更新			実施				→
	大学祭等での来訪者へのパンフレット配布			実施				→

中期目標	項目	教育
中期計画	項目	学生支援の充実 学生の学習意欲を高める仕組みづくりを行うとともに、入学から卒業後までのキャリア形成支援体制を充実させ、学習・就職活動を支援する。
	実施事項	1. 入学から卒業後までのキャリア形成支援体制の強化 2. 大学間の学生コンソーシアムの構築 3. 大学院生支援の充実

中期計画内容							
1	実施事項	入学から卒業後までのキャリア形成支援体制の強化<人間社会学部><看護学部>					
	内容	①キャリアサポートセンターの個別相談機能を強化するとともに、センターと各学部・学科との連携を深め、学生一人ひとりに対応したキャリア形成支援を行う。 ②1年次から4年次までの系統的キャリア形成支援講座の仕組みづくりを行い、実施する。また、キャリアサポートセンターの個別支援と連動させ、個々の学生の必要に応じた受講を促す。 ③1～2年次に行うプレ・インターンシップを充実させ、3年次以降のインターンシップにつなげる。 ④マイキャリアポケット(社会貢献活動記録帳)を活用した社会貢献活動やインターンシップ等の単位認定の仕組みを導入し、社会貢献・ボランティア支援センターと連携しながら実施する。 ⑤未就職の卒業生や離職・転職した卒業生などに対して、概ね卒業後1年間、継続的なキャリア形成支援を行う。 ⑥優秀学生の表彰制度の構築やドロップアウト予防の学習支援体制の構築等、GPA制度の有効活用について検討・実施する					
	評価指標	指標			達成目標		
		プレインターンシップ及びインターンシップ後の学生アンケート			良好評価 75%以上		
		キャリア形成支援講座参加者アンケート			良好評価 75%以上		
		GPA制度の活用状況調査			GPA2.0未満の学生面接率100%		
		表彰制度の実施			表彰の実施(年1回)		
	実施計画	H24	H25	H26	H27	H28	H29
	キャリアサポートセンターの機能強化			実施			
	系統的キャリア形成支援講座	仕組みづくり			実施		
	プレ・インターンシップ及びインターンシップ			実施			
	社会貢献活動やインターンシップ等の単位認定	検討			実施		
	卒業生に対するキャリア形成支援	検討			実施		
	GPA制度の有効活用方法の検討・実施	検討			実施		
	表彰制度の実施				実施		

2	実施事項	大学間の学生コンソーシアムの構築 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞					
	内容	①九州沖縄の大学間の学生コンソーシアムを構築し、学生間の交流を促進し、学生が主体的に学生コミュニティを作り、大学生としての「学びの文化」の創造を目指す。					
	評価指標	指標			達成目標		
		学生フェスティバルの開催			1回／年 学生参加数 県立大学から20名以上		
	学生コンソーシアム会議の開催			対面会議 2回以上／年			
	実施計画	H24	H25	H26	H27	H28	H29
学生コンソーシアムの規約検討・実施	検討	→	実施	→	→	→	
学生コンソーシアム会議の開催			実施	→	→	→	
ケアリングSNSを活用した学生交流の促進			実施	→	→	→	ケアリングSNSは、「ケアリングアイランド九州沖縄構想」において、すでに構築され連携大学の教員・学生で活用しているSNS
学生フェスティバルの開催			実施	→	→	→	
3	実施事項	大学院生支援の充実					
	内容	①大学院生の入学から修了までの学生生活支援、教育研究活動支援を行う。 具体的には、学習及び研究環境に対する相談体制を整えるとともに、大学院生研究助成制度の新設、本学卒業生の大学院入学金減免措置について大学独自の奨学金の創設・活用の検討・実施、大学院生の国内学会参加費補助制度の構築などを行う。					
	評価指標	指標			達成目標		
		助成金の実施状況			3件以上／年		
	国内学会参加費補助制度の活用件数			4件以上／年			
	実施計画	H24	H25	H26	H27	H28	H29
大学院生への相談体制の具体策の整備・実施	検討	→		実施	→	→	大学院生への相談体制強化(院生同士の交流会開催)など
研究助成金制度の検討・実施	検討	→		実施	→	→	審査規則などの整備・報告書および発表会の実施
卒業生の大学院入学金減免措置の検討・実施	検討	→		実施	→	→	大学独自の奨学金の創設・活用の検討を行う。
国内学会参加費補助金制度の検討・実施	検討	→		実施	→	→	

中期目標	項目	教育
中期計画	項目	学習環境の充実 学部生及び大学院生がインターネット社会に対応した学習環境の中で、学習できる環境を整備する。また社会人学生が学習しやすい体制を整備することで、大学院志願者の増加をめざす。
	実施事項	1. IT教育システムの充実 2. 社会人が学びやすい学習環境の充実 3. 図書館の教育・研究活動支援と研究情報公開の充実

中期計画内容

1	実施事項	IT教育システムの充実 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞						
	内容	学生の自主的学習を促すために、授業時間外の学習を支援するeラーニングシステムの活用を推進する。 ①eラーニングシステムの教育効果を上げる活用方法を検討する。 ②eラーニングシステムを改善する。 ③一定のコース開設数を維持する。 ④一定の学生の利用率を維持する。						
	評価指標	指標			達成目標			
		eラーニングコース開設数			100以上(平成26年度以降)			
		学生の利用率			70%以上(平成26年度以降)			
	実施計画	H24	H25	H26	H27	H28	H29	備考
	教員向け講習会実施			実施				教員向けのeラーニングコンテンツの作成方法についての講習会の実施
	eラーニングシステムの改善の検討			実施				
	コース開設数調査			実施				
	学生の利用率調査			実施				

2	実施事項	社会人が学びやすい学習環境の充実 ＜人間社会学研究科＞＜看護学研究科＞						
	内容	①社会人が学びやすい学習環境の充実(サテライト教室の整備充実) ②既修得単位認定システムの整備(システムの明文化とHPでのインフォメーション) ③指導システムの充実 ④研究生制度の積極的活用						
	評価指標	指標					達成目標	
		アンケートによる満足度					参加した社会人のアンケート調査における 良好評価70%以上	
	実施計画	H24	H25	H26	H27	H28	H29	備考
	サテライト教室の整備			検討・実施				インターネットの整備(図書館検索システム利用など)
	博多サテライト教室での土・日曜日の開講実施			検討・実施				福岡県外の社会人受け入れを積極的に拡大していくために、博多でのサテライト教室を設置し、土・日曜日の授業開講を可能にしていく
	既修得単位などの制度のHP紹介			実施				
レポートのWEB提出、コメントなどIT環境の整備	検討・整備			実施			eラーニングの活用	
研究生制度の積極的活用			実施				大学院受験のために、学部の研究生制度を利用して、事前準備を行う仕組みを活用する。	
3	実施事項	図書館の教育・研究活動支援と研究情報公開の充実						
	内容	①教育・研究活動支援の充実と研究情報公開の視点から機関リポジトリの導入 ②ラーニング commons の設置 ③平日の開館時間延長・土日開館の実施						
	評価指標	指標					達成目標	
		機関リポジトリ登録件数					新規登録数年30件以上	
		ラーニング・commons 利用者数					月300名以上	
	開館延長時間内の利用者数					月200名以上		
実施計画	H24	H25	H26	H27	H28	H29	備考	
機関リポジトリの導入	調査			実施			「機関リポジトリ」とは、研究機関がその知的生産物(学術雑誌掲載論文、紀要など)を電子的形態で集積し保存・公開するために設置するシステム	
ラーニング・commons の設置		設置検討			実施		「ラーニング・commons」とは、図書館の資料等を利用して、グループで学習するために皆が集う共有スペースのこと	
平日の開館時間延長・日曜開館	検討			実施				

中期目標	項目	教育
中期計画	項目	人間社会学部の改革 人間社会学部は平成4年の設置時に10年間を目途に大幅改組の予定であった。しかし、その間、改組はされておらず、あわせて受験数が減少していく動向にある。そのため、学生に魅力ある学部へと改革していくことが求められており、平成22年度には人間社会学部将来構想のワーキンググループによる構想案が作成され、その後、学長を委員長とする将来構想検討会議で構想案を作成した。この構想案を基盤に、人間社会学部の改革を実施していく。
	実施事項	1 改革案の検討・作成

中期計画内容								
1	実施事項	改革案の検討・作成						
	内容	①将来構想を基に、具体的な検討のための組織を立ち上げる ②労働市場や学生のニーズ等を調査する ③平成25年度までに改革案を検討・作成し、中期計画の変更を行う						
	評価指標	指標				達成目標		
		改革案の作成				平成25年度までに作成		
	実施計画	H24	H25	H26	H27	H28	H29	備考
	調査・分析 改革案の検討・作成		検討・作成					将来構想案を基に調査・分析を実施する併せて人間社会学部の改革案を作成する
	文部科学省への申請			申請				
	変更後の中期計画の遂行					実施		平成27年度より新たな人間社会学部をスタートさせる

中期目標	項目	教育
中期計画	項目	両学部連携の大学院博士課程の新設 保健・医療・福祉分野で、国内のみならずアジアを中核に国際的に第一線の研究を展開していく研究者を養成していくために、人間社会学研究科と看護学研究科が連携した博士課程について検討して新設する。
	実施事項	1 大学院博士課程の新設検討

中期計画内容

1	実施事項	大学院博士課程の新設検討					
	内容	①人間社会学部の改革検討と併せ、具体的な検討を行う ②平成25年度までに改革案を検討・作成し、中期計画の変更を行う					
	評価指標	指標			達成目標		
	実施計画	H24	H25	H26	H27	H28	H29
大学院博士課程の新設検討			検討・実施				新設案を平成25年度までに作成する。

中期目標	項目	研究
中期計画	項目	<p>地域とアジアの保健・医療・福祉に寄与する研究の推進 特色ある研究を推進し、特に地域とアジアの保健・医療・福祉に寄与する研究を推進する。 学術交流大学等との保健・福祉分野における学際的共同研究を実施し、研究成果を国内及びアジア諸国に広く公表していくことで、地域とアジアの保健・医療・福祉の推進に寄与していく。 また、外部研究資金を獲得し、研究を活発にする。</p>
	実施事項	<p>1. 附属研究所を中心とした学際的研究プロジェクトの推進 2. 外部研究資金の獲得の推進 3. 研究倫理の徹底</p>

中期計画内容																												
1	実施事項	1. 附属研究所を中心とした学際的研究プロジェクトの推進																										
	内容	<p>4センターを中核とした研究基盤体制を整備充実し、他大学・施設・研究機関等との共同研究を推進する。 ①地域とアジアの保健・医療・福祉に寄与する学際的研究プロジェクトを推進する。 ②学際的研究プロジェクトの成果を学内外に公表する。 ③附属研究所などを窓口及び活動拠点とした産学官連携を積極的に推進する。 ④協定校及び今後提携する海外の優れた教育機関や研究機関との研究者や学生、院生の交流を促進する。</p>																										
	評価指標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>指標</th> <th>達成目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学際的研究プロジェクト数</td> <td>3件以上/年</td> </tr> <tr> <td>学際的研究プロジェクトの成果発表会</td> <td>隔年1回開催</td> </tr> <tr> <td>学際的研究プロジェクトの報告書発刊</td> <td>隔年1回発刊</td> </tr> <tr> <td>日中韓等における保健・医療・福祉分野における学際的共同研究の活性化</td> <td>シンポジウムの開催 隔年1回</td> </tr> <tr> <td>産学連携契約件数</td> <td>年間2件(継続を含む)</td> </tr> <tr> <td>知的財産セミナーの開催</td> <td>年1回</td> </tr> <tr> <td>メールマガジン(イベント、セミナー、公募事業の紹介)の発行</td> <td>年12回以上</td> </tr> <tr> <td>研究シーズ発表会への参加</td> <td>3名以上(口頭発表、ポスターセッション等)</td> </tr> <tr> <td>論文数(査読付き、学術掲載文)</td> <td>人間社会学部年間 40件以上 看護学部年間 40件以上</td> </tr> <tr> <td>学会発表数(招待講演、シンポジスト招聘分)</td> <td>人間社会学部年間 10件以上 看護学部年間 10件以上</td> </tr> <tr> <td>提携協定校との共同研究数・招聘件数</td> <td>共同研究数 2件以上/年 招聘件数 2件以上/年</td> </tr> <tr> <td>提携協定校との共同研究の応募状況</td> <td>共同研究応募件数 3件以上/年</td> </tr> </tbody> </table>	指標	達成目標	学際的研究プロジェクト数	3件以上/年	学際的研究プロジェクトの成果発表会	隔年1回開催	学際的研究プロジェクトの報告書発刊	隔年1回発刊	日中韓等における保健・医療・福祉分野における学際的共同研究の活性化	シンポジウムの開催 隔年1回	産学連携契約件数	年間2件(継続を含む)	知的財産セミナーの開催	年1回	メールマガジン(イベント、セミナー、公募事業の紹介)の発行	年12回以上	研究シーズ発表会への参加	3名以上(口頭発表、ポスターセッション等)	論文数(査読付き、学術掲載文)	人間社会学部年間 40件以上 看護学部年間 40件以上	学会発表数(招待講演、シンポジスト招聘分)	人間社会学部年間 10件以上 看護学部年間 10件以上	提携協定校との共同研究数・招聘件数	共同研究数 2件以上/年 招聘件数 2件以上/年	提携協定校との共同研究の応募状況	共同研究応募件数 3件以上/年
指標	達成目標																											
学際的研究プロジェクト数	3件以上/年																											
学際的研究プロジェクトの成果発表会	隔年1回開催																											
学際的研究プロジェクトの報告書発刊	隔年1回発刊																											
日中韓等における保健・医療・福祉分野における学際的共同研究の活性化	シンポジウムの開催 隔年1回																											
産学連携契約件数	年間2件(継続を含む)																											
知的財産セミナーの開催	年1回																											
メールマガジン(イベント、セミナー、公募事業の紹介)の発行	年12回以上																											
研究シーズ発表会への参加	3名以上(口頭発表、ポスターセッション等)																											
論文数(査読付き、学術掲載文)	人間社会学部年間 40件以上 看護学部年間 40件以上																											
学会発表数(招待講演、シンポジスト招聘分)	人間社会学部年間 10件以上 看護学部年間 10件以上																											
提携協定校との共同研究数・招聘件数	共同研究数 2件以上/年 招聘件数 2件以上/年																											
提携協定校との共同研究の応募状況	共同研究応募件数 3件以上/年																											

実施計画	H24	H25	H26	H27	H28	H29	備考
学際的研究プロジェクトの成果発表会	実施		実施		実施		プロジェクト研究は2年間助成をしているため、2年目に成果発表会を実施。
学際的研究プロジェクト・個別研究の報告書発刊		発刊		発刊		発刊	奨励交付金(プロジェクト研究及び個別研究)の報告書はプロジェクト研究終了の次年度に発刊。
日中韓等における保健・医療・福祉分野におけるシンポジウムの開催		開催 人間社会学部		開催 看護学部		開催 人間社会学部	シンポジウムは隔年開催とし、各学部で交互に企画することとする。
産学官連携の取組実施			実施				
交流協定校との共同研究の公募・審査・実施		公募・審査・実施					
協定校の教員・研究者招聘			実施				
2 実施事項	外部研究資金の獲得の推進						
内容	①外部研究資金獲得を支援するための組織を学内に設立する。 ②科研費の応募率を上げるとともに科研費応募/獲得による教員評価システムの検討と実施						
評価指標	指標			達成目標			
	外部研究資金獲得件数、金額			年間30件以上、年間4,000万円以上			
	科学研究費応募率			80%以上(現在科研費による研究課題を持っている教員は除く)			
実施計画	H24	H25	H26	H27	H28	H29	備考
外部研究資金獲得支援組織の検討・設立・充実	検討	設立		充実			科学研究費応募率向上のための研修会の開催
科研費申請者へのインセンティブ制度の検討と実施	検討			実施			

3	実施事項	研究倫理の徹底					
	内容	①研究倫理審査体制の整備のために研究倫理委員会委員の研修参加を推進。 ②学外者を含めた審査体制の検討。 ③動物実験に関する委員会の開催及び動物実験実施ガイドラインの徹底 ④若手研究者に対するセミナーを開催し、倫理指針の徹底を図る。					
	評価指標	指標					達成目標
		学外での研修参加					年1人以上(研究倫理委員会委員)
		セミナー開催					年1回(平成25年度以降)
動物実験に関する委員会(倫理審査を含む)					年2回以上		
実施計画	H24	H25	H26	H27	H28	H29	備考
委員に対する研修参加の推進			実施				
学外者を含めた審査体制の検討・実施		検討		実施			
動物実験実施に関する委員会開催			実施				倫理審査を含む
若手研究者に対する倫理指針の徹底(セミナー開催)		準備		実施			

中期目標	項目	社会貢献
中期計画	項目	地域とアジアとともに発展する国際交流の推進 保健・福祉に関わる人材育成のために、アジアの大学等と相互の教育・研究を促進する。
	実施事項	1. 国際交流センター(仮称)を中心とした教育研究の国際化推進体制の検討 2. 留学生への支援体制の充実 3. 産地記録資料の英文アーカイブ化と国際学術研究交流の推進

中期計画内容								
1	実施事項	国際交流センター(仮称)を中心とした教育研究の国際化推進体制の検討						
	内容	①福祉系総合大学として、中国・韓国等の大学と保健福祉の実情について情報交換及び発信を行う。 ②地域住民との連携事業による地域の国際化を視野に入れた文化交流プログラムの共同開発を行うとともに、教育研究の国際化推進体制を検討する。 ③ゲストハウスなどの受け入れ体制整備の検討を行う。こうした事業を推進するために国際交流センター(仮称)を開設する。						
	評価指標	指標			達成目標			
		教員交流数			延べ20名以上/年			
	文化交流プログラムの実施			1回以上/年				
	実施計画	H24	H25	H26	H27	H28	H29	備考
	国際交流センター(仮称)立ち上げと体制整備	検討		開設				国際交流部会で検討する。
					体制整備			
	文化交流プログラムの共同開発		検討		実施			
	連携大学との教員交流の推進			実施				
2	実施事項	留学生への支援体制の充実						
	内容	①短期研修制度の充実:短期研修制度の拡充により、派遣留学先の情報・魅力を学生に十分に提供し、支援する。 ②派遣中の学生への支援:派遣期間中の留学生の修学・生活上の問題点等を、留学に関するアンケート等により把握し、支援する体制を作る。 ③受入留学生の新たな支援について検討・実施する。 ④短期派遣留学生の奨学金・交換留学協定締結について検討・実施する。						
	評価指標	指標			達成目標			
		留学を経験した学生の報告会			年1回以上			
	受入留学生数			30人以上(私費留学生を含む)/年				
	実施計画	H24	H25	H26	H27	H28	H29	備考
	短期研修制度の充実			実施				
	派遣中の学生への支援			実施				
	奨学金・交換留学協定締結の実施	検討			実施			
	受入留学生の増加			検討・実施				受入留学生の新たな支援について検討・実施

3	実施事項	産炭地記録資料の英文アーカイブ化と国際学術研究交流の推進						
	内容	①世界記憶遺産に登録された山本作兵衛氏の日記・絵画の一部を県立大学で所管していることから、産炭地の歴史や記録資料(日記や絵画を含む)を英文に翻訳し、それをインターネット等を通じて世界に発信すると同時に、世界各国の産炭地に所在する大学との学術交流をおこなう。						
	評価指標	指標					達成目標	
		英文アーカイブ化の基礎となる日本語資料の翻訳					平成27年度までに作成	
	実施計画	H24	H25	H26	H27	H28	H29	備考
	所有権等保持者を交えた資料公開検討会議開催	実施						
地域の方々の日記現代語訳作業会議の開催			実施					
英文翻訳作業依頼と翻訳検証会議の開催			実施					
検証された英文翻訳のWEB上公開					実施			
世界産炭地の大学との学術交流フォーラム開催						実施		

中期目標	項目	社会貢献
中期計画	項目	県立三大学、福岡県、田川市郡との連携による社会貢献の推進 地域の抱える課題を解決していくために、附属研究所が核となって県立三大学、福岡県、田川市郡との連携を深めた取組を展開していく。
	実施事項	1 附属研究所による地域課題解決のための連携取組の推進

中期計画内容								
1	実施事項	附属研究所による地域課題解決のための連携取組の推進						
	内容	①福岡県・田川市郡との産学官連携事業の推進 ②田川市郡との包括連携事業の推進 ③県立三大学連携による社会貢献共同プログラムの実施						
	評価指標	指標				達成目標		
		福岡県・田川市郡との産学官連携事業の実施				1件以上／年		
		田川市郡との包括連携事業の実施				5件以上／年		
		県立三大学連携による社会貢献共同プログラムの実施				1企画以上／年		
	実施計画	H24	H25	H26	H27	H28	H29	備考
	福岡県・田川市郡との産学官連携事業の検討・実施			検討・実施				→
	田川市郡との包括連携事業の検討・実施			検討・実施				→
	県立三大学連携による社会貢献共同プログラムの実施			検討・実施				→

中期目標	項目	社会貢献
中期計画	項目	地域に貢献する大学としての認知度アップと事業推進 附属研究所(生涯福祉研究センター、ヘルスプロモーション実践研究センター、不登校・引きこもりサポートセンター、社会貢献・ボランティア支援センター)を核に、健やかで心豊かな福祉社会の実現に貢献する。また、大学の社会貢献活動に関する情報を積極的に発信し、地域に貢献する大学としての認知度の向上を図る。
	実施事項	1. 地域住民の健康の向上、福祉、教育等の相談・支援の実施 2. 資格・免許保持者等へのリカレント教育や研修の実施 3. 地域に貢献する大学としての認知度アップ戦略 4. 看護実践教育センターでの認定看護師教育の充実

中期計画内容

1	実施事項	地域住民の健康の向上、福祉、教育等の相談・支援の実施						
	内容	①生涯福祉研究センターの事業推進 ②ヘルスプロモーション実践研究センターの事業推進 ③不登校・引きこもりサポートセンターの事業推進 ④社会貢献・ボランティア支援センターの事業推進						
	評価指標	指標					達成目標	
		参加者・相談者アンケート					良好評価75%以上	
	実施計画	H24	H25	H26	H27	H28	H29	備考
	生涯福祉研究センターの事業推進			実施・検討				→
ヘルスプロモーション実践研究センターの事業推進			実施・検討				→	
不登校・引きこもりサポートセンターの事業推進			実施・検討				→	
社会貢献・ボランティア支援センターの事業推進			実施・検討				→	

2	実施事項	資格・免許保持者等へのリカレント教育や研修の実施					
	内容	①資格・免許保持者等への力量形成にむけた教育と卒業生へのキャリアサポートの実施					
	評価指標	指標			達成目標		
		専門分野を深める講習会、研究会の開催回数			各ライセンス向けのリカレント実施数 年間1回以上		
		看護技術追跡調査実施状況			年間1回(平成25年度から)		
卒業生参加数						各学部卒業生参加数 年間10名	
実施計画	H24	H25	H26	H27	H28	H29	備考
看護技術の追跡調査の検討と実施	検討 →		実施				→
調査結果のリカレント教育への反映				実施			→
看護師・保健師・助産師・養護教諭へのキャリアアップ及びリカレント教育			実施	検討			→
社会福祉士や精神保健福祉士等の福祉従事者へのキャリアアップ及びリカレント教育			実施	検討			→

3	実施事項	地域に貢献する大学としての認知度アップ戦略						
	内容	①附属研究所(不登校・ひきこもりサポートセンター等)の全国モデルとしての展開 ②公開講座の実施 ③世界記憶遺産「山本作兵衛の日記等」の保管・管理及び公開 ④附属研究所関連研究分野における大学または研究所間の全国ネットワークの組織の創設						
	評価指標	指標					達成目標	
		学会・県外研修会等における附属研究所活動紹介の回数					年5回以上	
		公開講座の実施回数					年3回以上開催	
	実施計画	H24	H25	H26	H27	H28	H29	備考
	附属研究所活動紹介			実施				
	大学または研究所間ネットワーク組織の創設の検討・実施	検討			実施			
	公開講座の実施			実施				
	世界記憶遺産の保管・管理及び公開			保管・管理・公開				

4	実施事項	看護実践教育センターでの認定看護師教育の充実					
	内容	①糖尿病看護認定看護師教育課程を運営し、地域に貢献する糖尿病看護師を養成する。 ②志願倍率を保ち、より水準の高い人材を確保するためのリクルート活動を行う。 ③同窓生によるネットワークを構築し、よりよい糖尿病看護のあり方について学ぶ場を持ち、研鑽しあう。 ④地域貢献の一環として田川市郡を中心に生活習慣病に関連した健康教育を積極的に実施する。					
	評価指標	指標			達成目標		
		志願倍率:(志願者数/募集人員)			1.5倍以上		
		認定合格率			90%		
		福岡県糖尿病看護研究会の定期開催 同窓生によるフォローアップ研修会			年4回以上 年1回以上		
リクルートのためのリカレント研修会の開催 参加者アンケート			年1回以上 良好評価75%以上				
健康教室 参加者アンケート			年3回以上 良好評価75%以上				
実施計画	H24	H25	H26	H27	H28	H29	備考
福岡県糖尿病看護研究会の開催			検討・実施・修正				→
認定修了生のフォローアップ研修会開催			検討・実施・修正				→
受験生確保のためのリカレント研修会の開催			検討・実施・修正				→
健康教室			検討・実施・修正				→

中期目標	項目	業務運営
中期計画	項目	運営体制の改善 理事長のリーダーシップのもと、社会のニーズに対応するため、柔軟かつ機動的に教育研究体制を整備するとともに、多様化する大学運営の課題に対応するため、専門性を備えた職員の人材確保・育成など、大学運営の基盤強化を図る。
	実施事項	1. 事務局機能の強化 2. 教員の志気を高める教育環境の整備 3. 教員の個人業績評価システムの改善 4. リスクマネジメント体制の整備

中期計画内容

1	実施事項	事務局機能の強化						
	内容	①大学に特有な業務の機能を強化するため、段階的にプロパー職員の採用を進める。 ②徹底的な事務処理の見直し、業務マニュアルの作成、情報の共有化により、事務作業の簡略化を検討する。 ③事務職員の資質の向上と教育現場に関わる者として意識の向上を図るため、SDのシステム化を推進する。 ④研究や活動内容等をデータベース化し、蓄積した情報を有効活用する。 ⑤防災・防犯対策や学生の事故防止のため安全管理体制の充実を図る。 ⑥より機能的な事務体制の実現に向けて、県立三大学の事務処理の共通化を検討・実施する。						
	評価指標	指標			達成目標			
		プロパー職員の採用			平成27年度までに8名以上			
	実施計画	H24	H25	H26	H27	H28	H29	備考
	プロパー職員の採用		実施		→			
	事務作業の簡略化の検討			検討			→	
	SDのシステム化の推進	検討	→		参加			専門性向上のため、学外研修制度を積極的に活用する。
	データベース化	検討	→		実施・修正		→	
	ヒヤリハット報告に基づく事故再発防止の事例検討			検討			→	微細なヒヤリハットの事例でも、そのつど詳細な検討を行い、事故防止に努める。
	防犯講習会の開催			実施			→	年2回は開催する
	防災訓練の実施			実施			→	年1回実施する。
	県立三大学の事務処理の共通化の検討・実施			検討・実施			→	

2	実施事項	教員の志気を高める教育環境の整備						
	内容	①教員表彰制度(Best Teacher's Award・研究費優遇・学内外公表等)の創設 ②研究経費の全学的視点からの戦略的配分を推進するため、理事長裁量経費としての研究奨励交付金制度の充実 ③担当科目数の平準化						
	評価指標	指標			達成目標			
		教員表彰の実施(Best Teacher's Awardを含む)			毎年度の表彰			
	研究費に占める研究奨励交付金の割合			30%				
	実施計画	H24	H25	H26	H27	H28	H29	備考
	教員表彰制度委員会の設置と検討	検討 →						表彰制度委員会を設置し、制度及び表彰特典の検討
教員表彰制度の実施			実施			→		
研究費配分の実施			実施			→		
担当科目数の平準化	調査 →		検討・一部実施 →		実施 →		担当科目数調査の実施と業務補助等の制度の検討	
3	実施事項	教員の個人業績評価システムの改善						
	内容	①教員の個人業績評価システムを改善し、効率化を図るとともに、より妥当な評価基準を作成する。 ②個人業績評価基準見直し検討委員会を設置し、先行している国立大学や公立大学の実態を調査、教員に対するヒアリングの実施、第一期における個人業績評価結果の分析を行い、改善案を策定する。						
	評価指標	指標			達成目標			
	実施計画	H24	H25	H26	H27	H28	H29	備考
個人業績評価基準の見直し・検討		見直し・検討 →						
個人業績評価基準の改善・修正			改善・修正 →					
4	実施事項	リスクマネジメント体制の整備						
	内容	①他大学の体制調査・リスクの洗い出し作業等を実施する。 ②リスクに対応したマニュアルを作成してリスクマネジメント体制を整備する						
	評価指標	指標			達成目標			
	実施計画	H24	H25	H26	H27	H28	H29	備考
リスクマネジメント体制の整備	調査 →	検討 →		実施 →				

中期目標	項目	財務
中期計画	項目	自己収入の積極的確保 外部研究資金等の確保に対する取組を強化することにより自己収入の積極的確保を図る。
	実施事項	1. 外部研究資金等の積極的確保

中期計画内容								
1	実施事項	外部研究資金等の積極的確保						
	内容	①受託研究、受託事業などの外部研究資金等の積極的獲得に全学的に取り組む。外部研究資金等獲得に向けた支援体制を整備する。 ②民間企業や同窓会組織に対して、寄附金を増加させるための広報活動を戦略的に実施し、自主財源基金化スキームの実現に向けて検討する。						
	評価指標	指標					達成目標	
		外部研究資金等獲得額					年間5,000万円以上	
	実施計画	H24	H25	H26	H27	H28	H29	備考
	外部研究資金等の積極的獲得			実施				→
外部研究資金等獲得に向けた支援体制の整備			実施				→	
その他の収入確保のための広報活動の実施			実施				→	
自主財源基金化スキームの検討・実施		検討	→		実施		→	

中期目標	項目	財務
中期計画	項目	運営経費の削減・抑制 業務改善による経費の削減と人件費の抑制に取り組む。
	実施事項	1. 業務改善による経費の削減 2. 人件費の抑制

中期計画内容							
1	実施事項	業務改善による経費の削減					
	内容	①事務処理方法の見直しや外部委託などの業務改善を実施し経費の削減を図る。 ②エコ・省エネ型キャンパスの実現を図る。					
	評価指標	指標					達成目標
		年度計画で設定					
	実施計画	H24	H25	H26	H27	H28	H29
経費の削減			実施				→ エコ・省エネ型キャンパスの実現に向け計画的に取り組む
2	実施事項	人件費の抑制					
	内容	①教育研究水準の維持・向上に配慮しつつ、人件費の抑制を図る。					
	評価指標	指標					達成目標
		年度計画で設定					
	実施計画	H24	H25	H26	H27	H28	H29
人件費の抑制			実施				→

中期目標	項目	評価及び情報公開
中期計画	項目	自己点検・評価の効率的な実施
	内容	自己点検・評価及び各種評価結果を大学運営に反映し、改善を図る。
	実施事項	1. 自己点検・評価の見直しと実施

中期計画内容								
1	実施事項	自己点検・評価の見直しと実施						
	内容	①中期目標の実現を目指して、計画的に年度計画を立て、実施し、自己評価する。県評価委員会の評価結果を大学運営に反映させる。 ②各教員の教育・研究・社会貢献の実績調査を実施し、教育・研究・社会貢献一覧を作成し、HPIに掲載する。 ③次期認証評価に向けて、必要なデータを蓄積する仕組みを検討し、認証評価の準備を行う。						
	評価指標	指標				達成目標		
	実施計画	H24	H25	H26	H27	H28	H29	備考
	中期計画の自己評価の実施			実施				
	教育・研究・社会貢献一覧の作成			実施				結果はHPに掲載するため、広報部会と調整する。紙ベースの報告書の作成は廃止し、CD-ROMでの保存に移行する。
	認証評価に向けた検討・準備 認証評価の申請		検討・準備		実施		検討	平成28年度に次回の認証評価を申請予定。それに向けて計画的に準備を行う。平成25年度までは自己点検評価委員会で受審内容の検討を実施。平成26年度にWGを設置し具体的な作業に着手する。

中期目標	項目	評価及び情報公開
中期計画	項目	広報活動の充実・強化 本学の教育理念、教育・研究内容、社会貢献活動等について積極的に情報公開し、県大ブランド力を高める。
	実施事項	1. 県大ブランド力の強化

中期計画内容								
1	実施事項	県大ブランド力の強化						
	内容	効果的な広報活動による社会的プレゼンスの向上・メディアとの包括連携の推進を図る ①魅力あるHPの充実 ②県大ブランドとなる教育プログラム等の積極的広報 ③多様な媒体(出版物、マスメディア、車内広告、駅広告などの活用)や出前講義等を通じた広報活動の充実 ④情報発信体制の整備						
	評価指標	指標			達成目標			
		大学案内パンフレットの作成			2種類			
		広報誌の作成			2回/年 発行			
		出前講義数及びアンケート			出前講義(体験学習含む)20回以上 良好評価75%以上			
		教育プログラム紹介の広報活動実績			3件以上/年			
	メディアにとりあげられた件数			地方版 5件以上/年 全国版 1件以上/年				
	実施計画	H24	H25	H26	H27	H28	H29	備考
	①HPの定期的更新			実施				ホームページ上に掲載されている情報が適切に更新されているか(古い情報が含まれていないか)を毎年総チェックを行なう。
①HPの全面的リニューアルの検討・実施		検討		実施			平成21年度に全面的リニューアルを実施しているが、平成25年度までに改善すべきポイントをまとめる。平成26年度もしくは27年度に全面的リニューアルを実施する。	
②県大ブランドとなる教育プログラム等の積極的広報			実施				東洋医学を導入した教育プログラム等の積極的広報活動を実施する	
③多様な媒体を通じた広報活動の充実			実施				大学案内パンフレット・広報誌・出前講義による大学のPR活動の充実、新たな広告の検討(車内広告、駅広告等)	
④情報発信体制の整備			実施				HPの各部署の発信体制の整備、プレスリリース体制の充実	

I 収支計画予算及び資金計画予算

1 収支計画予算

平成24年度～平成29年度 収支計画予算

(単位:百万円)

区 分	金 額
費用の部	10,484
業務費	9,074
教育研究経費	1,673
受託研究費等	50
人件費	7,351
一般管理費	1,410
(減価償却費 再掲)	(445)
収益の部	10,484
運営費交付金収益	5,448
授業料収益	3,407
入学金収益	725
検定料収益	158
補助金収益	10
雑益	256
受託研究等収益	50
寄附金収益	2
資産見返運営費交付金等戻入	65
資産見返補助金戻入	66
資産見返物品受贈額戻入	297
純利益	0

[運営費交付金の算定方法]

別紙のとおり

2 資金計画予算

平成24年度～平成29年度 資金計画予算

(単位:百万円)

区 分	金 額
資金支出	10,503
業務活動による支出	10,039
投資活動による支出	128
財務活動による支出	0
次期中期目標期間への繰越金	336
資金収入	10,503
業務活動による収入	10,150
運営費交付金による収入	5,448
授業料等による収入	4,389
補助金による収入	10
受託研究等による収入	52
その他収入	251
投資活動による収入	17
財務活動による収入	0
前期中期目標期間よりの繰越金	336

II 短期借入金の限度額

1 短期借入金の限度額 3億円

2 想定される理由

運営費交付金の交付時期と資金需要の期間差及び事故の発生等により緊急に必要となる対策費として借り入れすること。

III 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画 なし

IV 剰余金の使途

決算において剰余金が発生した場合は、教育研究の質の向上及び組織運営の改善に充てる。

V その他設立団体の規則で定める業務運営に関する事項

1 法第40条第4項の規定により業務の財源に充てることのできる積立金の処分に関する計画積立金は、教育研究の質の向上及び組織運営の改善に充てる。

2 その他法人の業務運営に関し必要な事項 なし

運営費交付金の算定方法

運営費交付金＝普通交付金＋特別交付金

[普通交付金の算出方法]

普通交付金＝標準的支出額－標準的収入額

I 標準的支出額

人件費＋教育研究経費＋診療経費＋一般管理経費

(1) 人件費（退職手当を除く。）

平成23年度における役員、教職員の実員×平成20年度から平成22年度まで（以下「過去3か年」という。）の実績から算出した役員、教職員1人当たりの額

（注）退職手当については、法人の役員退職規程及び法人の大学職員退職規程に基づいて支給することとするが、運営費交付金として交付される金額については、各事業年度の予算編成過程において算定される。

(2) 教育研究経費及び一般管理費

5月1日現在の学生数×過去3か年の実績から算出した学生1人当たりの額

(3) 診療経費

過去3か年の平均患者数×過去3か年の実績から算出した患者1人当たりの額

II 標準的収入額

授業料＋授業料以外の学生納付金（入学金等）＋検定料＋診療収入＋その他の収入

(1) 授業料

5月1日現在の学生数×当該年度の授業料単価×収入歩合×留保財源率

※ 収入歩合＝98%

※ 留保財源率＝95%（平成24年度は95%。平成25年度以降は、評価委員会の評価に応じて92%から98%までの間で率が決定される。）

(2) 授業料以外の学生納付金（入学金等）

5月1日現在の入学生×入学料単価 など

(3) 検定料

過去3か年の平均志願者数×検定料単価

(4) 診療収入

過去3か年の平均患者数×過去3か年の実績から算出した患者1人当たりの額

(5) その他の収入

過去3か年の実績から算出した額

[特別交付金の算出方法]

法人の事情による特別経費として、当該年度において措置する経費